

9.24(毎日)

琵琶湖照らす復興への祈り



郡山市の子どもたちが復興の願いを込めたあんどん＝大津市で

あんどん 全国あかり展 あすまで

大津 復興の光で琵琶湖を照らす。23日に大津市の浜大津湖岸線地域で始まった「全国あかり展」には、東日本大震災で被災した岩手、福島両県を含め、全国から計13団体が参加。被災地の子どもの作品のともしびに、訪れた人々が復興の祈りを込めた。展示は25日まで。【加藤明子】

全国のライトアップイベント主催者が集まる「全国あかりサミット」に合わせた企画で、奈良市の「なら燈花会」や京都市の「花灯路」など、各団体自慢のオブジェや灯ろうが湖岸を彩っている。

東日本大震災

東北からは▽岩手県平泉町の「浄土のあかり」▽福島県下郷町の「大内宿の灯」▽同県

郡山市の「海老根秋蛸」の3団体が初参加した。福島第一原発事故で屋外活動が制限されている郡山市の小・中学生が製作したあんどん

約100個も出展。作品を託された海老根秋蛸実行委事務局長、熊田英重さん(61)が「借りてくぞ」と話す。児童らは「これ琵琶湖に飾るんだって」と大喜びしたという。熊田さんは「作品には子どもたちの復興の願いが込められている」と話した。

と語った。横浜市から訪れた前田裕司さん(65)、恵美子さん(64)夫妻は「すてきな明かりで心がなごむ。先月東北に旅行したら、いつもは渋滞する道もがらがらで驚いた。元気になってほしいのでまた行きたい」と話した。

湖岸照らす希望の火

【天津】 大津で開幕 震災被災地からも

「なら燈花会」(奈良市)や「京都宇治灯り絵巻」(京都府宇治市)など明かりに関する各地の催しを紹介する「全国あかり展」が23日、大津市の浜大津湖岸緑地帯で始まった。25日まで毎日、日没から午後10時まで夜の



湖岸を照らす。

17日から開催中の町おこしイベント「大津まちなか食と灯りの祭」の実行委が主催。東日本大震災で被災した福島県郡山市の「海老根秋澄」や岩手県平泉町の「浄土のあかり」など、9府県の12の催しが参加。和紙の灯籠や石灯籠などが並び、中には「一日も早い復興を」「がんばろう宮古」など、岩手県の小学生らが願いを記したペットボトル製の灯籠もあった。

大津市皇子が丘、会社員寸山少紀さん(71)は「ロケソクなど優しい光が多くて心が落ち着きますね」と話していた。

問い合わせは実行委(077・52280・250)。

復興への願いが記された岩手県平泉町の「浄土のあかり」(大津市浜大津)

あかりで地域元気に

【大津】 被災地から 大津で 全国あかり展

あかりを使ったまちおこしをする各地の団体が集まる「全国あかりサミット」が二十四日に開か

る。サミットでは、あかりを地域おこしに役立てる国内各地の約二十団体が集まり、意見を交換する。今年で五回目、県内では初開催。年末まで大津の中心市街地で各種イベントを開く「大津まちなか食と灯りの祭」の一環として開かれる。

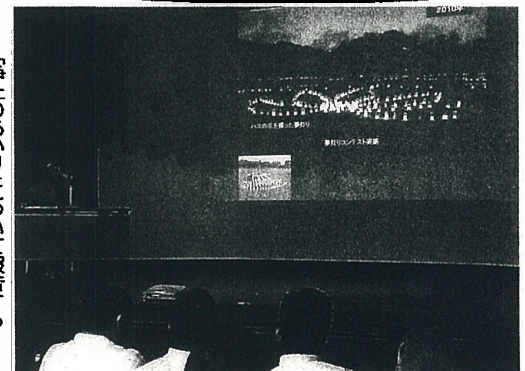
サミットに先がけて湖岸で催される「全国あかり展」では、奈良市の「なら燈花会」や岐阜県美濃市の「美濃和紙あかりアート展」、岩手県平泉町の「浄土のあかり」など、十二団体が出展。夜風が涼しくなった湖岸をにぎやかに彩った。

サミットは二十四日に同市浜大津の旧大津公会堂で開かれ、全国あかりサミット連絡協議会が設立される。午後三時から京都造形芸術大の山崎亮教授による基調講演は、一般の傍聴もできる。

(滝田健司)

「灯り」で地域再生を

福島など21団体交流 大津でサミット



『浄土のあかり』について報告する 升沢さん(大津市浜大津一丁目)

手作りの照明「灯り」をテーマに地域活性化に取り組み住民団体などが集う「全国あかりサミットin大津」が24日、大津市浜大津一丁目の旧大津公会堂で開かれ、東日本大震災の被災地を含む全国各地の関係者が交流を深めた。サミットは岐阜県や香川県などで催され、5回目。今年は大津市の中心市街地で開催中の「大津まちなか食と

9.25(BBC)

全国あかりサミット大津で開催

2011年09月24日(土) カテゴリ BBC

イルミネーションやライトアップなど全国各地の「灯り」イベントを紹介する「第5回全国あかりサミット」が24日大津市で開かれ、これにあわせ、市内では各地域から集まった光りのオブジェが夜の湖岸を彩っています。「全国あかりサミット」は日本各地のイルミネーションなど灯りを使ったイベントの主催者らが集まり、意見交換を行い、町おこしに役立てようというもので、第5回となる今年は大津市を会場に開かれました。今年には23の地域が参加し、旧大津公会堂で開かれた24日のサミットでは地域の枠を越えた連携と協力の強化が確認されました。また浜大津の湖岸では各地の灯りイベントを紹介する「全国灯り展」が開かれ、今年には東日本大震災の復興を願い、岩手県や福島県をはじめとする13の地域と団体の灯りが再現されています。ロウソクやライトの淡い光りに訪れた人々も静かに見入っていました。「全国灯り展」は浜大津の湖岸緑地で明日まで開かれています。

9.25(中日)

光に集い人々明るく

幻想的なあかりで包まれた浜大津湖岸緑地帯=いずれも大津市浜大津で



明かりを使ったイベントで地域おこしをしている団体が集まる「第五回全国あかりサミット」が二十四日、大津市浜大津の市旧大津公会堂であった。サミットに合わせ、各地のイベントで飾られている明かりが、同市浜大津五の湖岸周辺で灯されている。二十五日まで。の山崎亮教授(兵庫県)が「人とまちを元気にするあかり」では、京都造形芸術大と題して講演。大阪府や栃木県の地域づくりに挑戦した取り組みなどを紹介し「明かりのイベントを通じて人と人とのつながりを作っていくってほしい」と呼び掛けた。その後、二団体の活動報告とパネル討論があった。大津港周辺には岩手県平泉町、福島県郡山市を含む全国十二団体の千五百点の明かりアートを展示。赤や白のプラスチックカプセルの中にろうそくを灯したものや、木の骨組みを白い紙で包み、明かりを灯した鶴などが並んだ。訪れた人々は、写真撮影などをしながら幻想的な光を楽しんでいた。(山内晴信)

大津で全国あかりサミット

灯りの祭りの実行委が主催し、福島県や京都府、香川県などから21団体が参加した。サミットでは岩手県平泉町の「浄土のあかり」の升沢博子さん(60)が毛越寺周辺に約3000の灯りを並べるイベントや、菜の花。花から法灯の油をつくらせて中尊寺に奉納する試みを紹介。パネルディスカッションでは参加者が「コミュニティが再生した」「地元和紙を使った灯りの産業化に取り組んでいる」などと報告した。(秋田久氏)

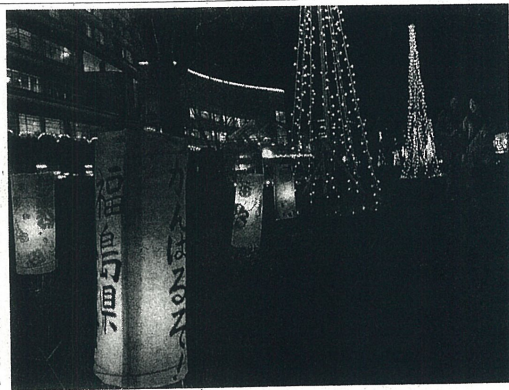
9.25(NHK)

全国あかりサミット NHK

あかりを使った町おこしについて話し合う「全国あかりサミット」が24日、大津市で開かれ、全国各地のさまざまなあかりのイベントが紹介されました。このサミットは、全国であかりを使ったイベントを行っている団体が集まって毎年開いているもので、ことしは、関西を中心に北海道や九州の団体など20あまりの団体が参加しました。サミットでは、最近の各地のイベントが紹介され、源氏物語の一場面を描いた灯ろうを宇治川周辺に並べる京都府宇治市のイベントや、屋形船の屋根に1から12までの数字をかたどったあかりを載せて長良川を下る、岐阜市の団体の年越しイベントなどが紹介され、こうしたイベントにはたくさんの見物客が訪れたと報告されました。このほか、岩手県平泉町の団体は世界遺産の中尊寺の参道に地元の人が500人あまりで作った灯ろうを並べたイベントを紹介し、町おこしには住民の参加が大切だと訴えていました。会場には、学生や市民など50人ほどが集まり、時折、メモを取りながら、各地の珍しい取り組みを熱心に聞いていました。

9.27(産経)

明かりでまちおこしに取り
組む全国の21団体が集ま



産経

大津で全国あかりサミット 21団体参加

全国各地でサミットを開催。大津市では、ライトアップイベント「大津まちなか食と灯りの祭り」が開かれており、5回目の開催地になった。

24日に行われたサミットには関係者ら約100人が集まり、山崎亮・京都造形芸術大学教授が「人とまちを元気にするあかり」と題して基調講演。「住民が主体的に継続してまちおこしに参加できる地域コミュニティづくり」に力を入れなければならぬ」と強調した。

25日までの3日間、日没後に同市の浜大津湖岸緑地帯で「コトナリエ」(滋賀県東近江市)や「なら燈花会」(奈良市)、「海老根秋螢」(福島県郡山市)などの13団体が作成した照明を点灯。海老根秋螢は、「がんばるぞー福島県」と記した灯りを設置し、東日本大震災からの復興への思いを託した。

産経湖岸 幻想的に

10.10(トラベルニュース)

あかりで地域おこし 23地域集いサミット



「あかりは人を和ませます」。
基調講演する山崎教授

「あかり」で日本を元気に。明かりを使ったイベントで地域おこしに取り組む地域・団体が集まる「全国あかりサミット」が9月24日、滋賀県大津市の市旧大津公会堂で開かれた。全国23地域、1000人が出席し連携やイベントの発展に意見を交わした。

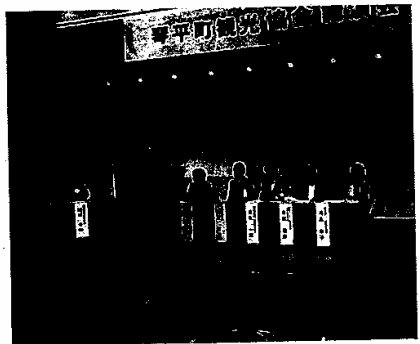
サミットは、全国の「あかり」イベントに取り組み地域・団体の情報交換と連携を目的に開催された。今年、奈良県で開かれた昨年の大会で設立が決まっていた同サミット連絡協議会の設立総会が開かれ、会長に滋賀県議会議員の山本進一さんを選出。山本さんは「あかりを通じて連携を図り、各地のイベントが盛り上がることを期待します」とあいさつした。

また、今回の開催地は北海道帯広市に決まった。

サミットでは、基調講演や事例発表、パネルディスカッションが行われた。基調講演は、京都造形芸術大学教授の山崎亮さんが「人とまちを元気にするあかり」と題して登壇。「コミュニティサイに携わる自身の経験

や、大阪府や栃木県でのまちづくりの取り組みを事例に挙げながら「明かりは人を和ませます。これを通じ、人と人とのつながりを大切にしてい」と呼びかけた。

約3000人が参加した講演会



観光で経済成長